

# 東海鉄道OB会報

第7号

平成18年10月



中央本線 奈良井駅前 ワイドビューしなの号 名古屋機関区支部 加藤鋼一

## 目次

- 東海鉄道OB会名古屋地方本部  
表彰式・総会  
名古屋地方本部事務局次長 水谷淳三：2
- 第二回東海鉄道OB会東海大阪地方本部  
総会を開催  
東海大阪地方本部事務局 高森仁司：2
- 東海東京地方本部平成十八年度総会開催  
東海東京地方本部事務局 水越春彦：2
- 東海鉄道OB会静岡地方本部  
第二回総会  
静岡地方本部事務局長 白井康雄：3
- 第五十四回公德キャンプ全国大会  
ボランティア活動に参加して  
富士宮支部長 木内徹男：4
- 笠寺支部総会開催  
笠寺支部事務局長 二村銹児：4
- 西濃支部定期総会  
西濃支部長 永塚守夫：4
- 東海鉄道OB会活動便り  
東海大阪地方本部車両支部事務局 藤田義晴：5
- 第一回菊作り講習会の開催  
東海大阪地方本部事務局 高森仁司：5
- 「第二回ゴルフコンペ」盛大に開催される  
東海大阪地方本部事務局 高森仁司：5
- JR東海トピックス：6
- グループインフォメーション：9
- 読者のひろば：11
- 駅探訪／「会報への寄稿、  
文芸欄への投稿」要領／編集後記：16



### 東海鉄道OB会名古屋地方本部 表彰式・総会

名古屋地方本部事務局次長 水谷淳二



七月四日(火)十一時三十分から平成十八年度東海鉄道OB会名古屋地方本部表彰式・総会を名古屋市内愛知厚生年金会館内会議室で地方本部全役員(地方本部長・全支部長ほか)、受賞者合計六十名が出席して開催した。

まず地方本部長表彰から始め、表彰式を次のように挙行了た。

#### 平成十八年度名古屋地方本部長表彰式次第

##### ①表彰状授与

長年、OB会の発展と業務運営に多大の貢献をし、業績を挙げた一団体、十二個人に地方本部長から一人ひとりに表彰状が授与され、その労をねぎらった。受賞者は次のとおり。(敬称略)

##### 【団体】笠寺支部

名域東北支部 山本昌生 / 稲機支部 立松弘史

西濃支部 保井和久 / 西濃支部 渡辺政一

尾北支部 犬飼 暢 / 美濃太田支部 日高浩男

陶都支部 奥谷千弘 / 恵那支部 逸見定夫

蟹江支部 上田繁男 / 弥富支部 佐藤正男

津 支部 岡 俊雄 / 伊勢支部 黄瀬 鴻

##### ②地方本部長祝辞

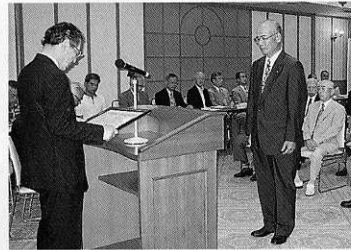
##### ③来賓祝辞

表彰式の後、受賞者をはじめ、参列者全員で昼食懇談会に移り、参列者を代表して永墓西濃支部長の乾杯の音頭を始め、一同心を和ませて懇談をした。

小憩の後、地方本部総会に進み、まず最初に昨年度物故された三百九名の方々に対する冥福祈念に始まり、

この一年の異動内容を説明のうえ、地方本部会計監査員と新任支部長六名を紹介して、地方本部長挨拶に進んだ。

平井地方本部長からは、①新組織が発足して一年経過したが基盤確立のためJR東海をはじめ、各グループ会社の強力な後押しがあることを忘れてはならない②いささかなりとも恩返しをするため、例えば地方本部主催団体旅行が盛会に実施できるよう、協力いただきたい③組織強化には会員増強運動の活性化が是非必要である④独自に発行した東海鉄道OB会報の記事寄稿をしてほしい等内容を述べた挨拶のあと、杉浦本部専務理事から東海鉄道OB会の現況や励ましの言葉をいただいた。



続いて議事に入り、事務局から平成十七年度事業報告と収支決算表の説明があり、これを受けて中川会計監査員から監査意見をいただいたあと、質疑ののちこれを承認、引き続いて平成十八年度予算案の説明があったが、ここで事務局から特に「運営は厳しい状況であり、経費の節減に最大限の努力をしていく」を付け加え、質疑があつてこれも承認された。

次にJRグループに対する増収協力活動の一環として十一月実施のJRバス五両による地方本部主催団体旅行「紅葉の寒霞渓とオリブ園小豆島の旅」の再度の趣旨説明と参加者名簿提出など連絡事項を説明、指示し、十四時過ぎに終了、散会した。

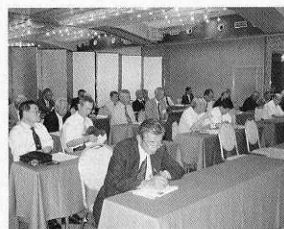
### 第二回東海鉄道OB会 東海大阪地方本部総会を開催

東海大阪地方本部事務局 高森仁司

平成十八年七月十九日(水)に「東海鉄道OB会東海大阪地方本部第二回総会」がニューオオサカホテル



「淀の間」において盛大に開催されました。吉村事務局長の開会のことばに続き、片山地方本部長から東海大阪地方本部の会員拡大及びレクリエーション等に取り組んだ結果、会員拡大については本部より運輸営業支部が会員増強表彰(団体)を受賞し、レクリエーションについてもゴルフ大会、ハイキング、菊作り講習会を開催して、一定の成果を挙げた旨の挨拶と報告がありました。



続いて事務局長の司会で議事が進行され、十七年度活動報告と収支決算報告並びに十八年度活動方針案として、昨年に引き続き「組織拡大とレクリエーション実施の取組み」等の重点目標を提案して満場一致で決議されました。

また、十八年度予算案、役員改選等につきましても決議され、活況のうちに総会は終了となりました。総会終了後、引続き懇親会が行われ、東海旅客鉄道株式会社坪内総務部長、杉本執行役員関西支社長、関西支社幹部、法人会員の代表や加藤東海鉄道OB会事務局長等多くの方々に来賓として参加して頂き、OB会員との楽しい会話も弾み、旧交を温めて、盛大のうちにお開きとなりました。

### 東海東京地方本部 平成十八年度総会開催

東海東京地方本部事務局 水越春彦

平成十八年五月二十五日、東海東京地方本部平成十八年度総会を東京駅前前の東京八重洲ホールにおいて、会員六十名の参加のもと開催しました。総会ではまず、川崎地方本部長から「今年は東海鉄

道OB会が発足して二年目を迎えております。先日五月二十三日に東海鉄道OB会総会が名古屋で開催されました。総会では堀内会長から組織改編後の一年間の振り返りと今後のOB会の進むべき方向についての挨拶があり、続いてJR東海石塚副社長様から励ましのお言葉をいただきました。

また席上、新幹線メンテナンス東海分会が会員増強表彰を受賞されました。その間の分会の皆様のご努力には敬意を表したいと思います。ぜひ、他の分会や支部の皆様においても、より一層の会員増強にご協力いただきますようお願いいたします。

東海東京地方本部ではこの一年間十分な活動ができませんでしたが、会員の皆様のご協力をいただいで活動を活性化していきたいと考えており、今年度はそのための仕組みづくりの年にならしたいと思っております。ぜひ、みなさんと知恵を出し合って活発な活動のOB会、充実したOB会にしたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。」との挨拶をいただきました。



そのあと議事に入り、青柳事務局長より平成十七年度の事業報告、会計報告が行われました。続いて平成十八年度の活動方針として、会員拡大に向けた取り組みを継続して行くこと、JR東海及びグループ会社の事業への協力を強く推進していくこと、一支部一活動を目標し、これに必要な経費のバックアップを行っていくこと等について説明があり、各議案について出席者全員の拍手をもって承認されました。

総会後、JR東海新幹線鉄道事業本部の建守本部長様はじめ各部長様をご来賓としてお招きして、懇親会を開催しました。

懇親会では建守本部長様から「日頃は東海道新幹線の運行や各種プロジェクトに協力いただいでおり、この場を借りて御礼申し上げます。おかげさまで東海道新幹線も順調にお客様のご利用をいただいでおります。今後N700系のデビューなどを控えておりますが、

大きなプロジェクトの遂行にはお客様の信頼を得てご利用いただくことが前提であり、そのためにも安全で安定した東海道新幹線としていかなければなりません。東海道新幹線は我々だけで支えているわけではなく、ここにお集まりの皆様と一体となって運行しておりますので、これからも皆様のご協力をお願いしたいと思います。

OB会はJR東海グループ全体としての組織力を発揮していくための大切な会であると思っております。この会のますますの発展を祈念します。」とのご挨拶をいただきました。

続いて、石津副本部長様に乾杯のご発声をいただき、OB会活動などについて和やかに歓談が行われ盛會裡に総会を終了しました。



### 東海鉄道OB会

#### 静岡地方本部第二回総会

静岡地方本部事務局長 白井康雄

五月二十六日(金)十時三十分から、東海鉄道OB会静岡地方本部総会が静岡駅南口東海軒会館において二十六支部支部長、事務局長等五十三名の出席を得て開催された。

まず、物故会員二百二十一名に対する黙祷。続いて小尾地方本部長が「東海鉄道OB会」になって一年、OB会の基盤の確立には組織の維持、加入促進が必要である。OB会報に掲載の各支部情報を参考にし、使役だけではなく、楽しく参加しやすい活動を推進していただきたいと挨拶した。

今回は、ご来賓としてJR東海静岡支社梅本支社長(当時)、申山管理部長、井上総務課長、滝井静岡駅長、ジェイアール東海ツアーズ稲葉静岡営業部長のご臨席をいただき、代表して梅本支社長よりご挨拶があり、JR東海の現況に触れた後、今年度のプロジェクトの説

明があり関連企業を含めたOB会の協力をお願いしたいと挨拶のお言葉があった。

又、五月一日付けで着任された申山管理部長からは自己紹介を兼ねての挨拶があった。

その後「叙勲」について小尾地方本部長から説明があり、各支部から候補者の推薦があれば調査し、静岡支社人事課を経て推薦して行くこととした。

五月二十三日に行われた東海鉄道OB会本部会長表彰の紹介に続き、会員増強と会員親睦に力を注ぎ、組織の発展に献身的に活動された渡辺一氏(身延支部事務局長)に小尾地方本部長から感謝状が贈呈された。

この後地方本部事務局長の司会で議事に入り、平成十七年度事業報告及び決算書を説明し、内藤会計監査員より監査報告を受け承認された。

続いて、平成十八年度事業計画及び運動方針(本部分針に静岡鉄道少年団等への協力活動等を加味)を説明し、これに伴う予算(案)については厳しい予算運営になる旨、特に説明があり承認された。

さらに地方本部長任期満了については東海鉄道OB会二年目に向け現執行体制でいくことが満場一致拍手で承認された。

続いて、赤羽雄雄沼津支部長より特に発言があり、会員の行事出席促進として例会での抽選会や支部発足五十周年記念行事に加え、平成十九年も「カレンダーの全員配布」等で参加意欲向上に効果をあげている旨提案があった。

又、今年会員増強で会長団体表彰受賞の清水清策藤枝支部長からは一生懸命頑張っている地区幹事の努力に負うところが多く、これに報いるための細かい配慮をしている旨説明され総会を終了した。



続いて三須一沼津支部事務局長の乾杯で懇談、昼食に入り十三時十分散会した。



### 第五十四回公德キャンプ全国大会 ボランティア活動に参加して

富士宮支部長 木内徹男



鉄道少年団を中心とした「第五十四回公德キャンプ全国大会」が八月四日から七日まで三泊四日の日程で富士山の麓、静岡県立朝霧野外活動センターを中心に実施された。

これに伴い八月五日・六日の二日間、鉄道OB会に各日、四、五名のボランティアの応援要請があり、協力することとした。八月五日はウォーキング、六日は竹細工がメイン。

ウォーキングは風穴、氷穴、紅葉台を歩く約八キロのコースで、総勢三百名余ということで風穴↓氷穴↓紅葉台↓風穴コースと氷穴↓風穴↓紅葉台↓氷穴コースの二手に分かれての実施となった。

コースは東海自然歩道として整備されており、樹海の中を歩くのであるが、ところどころに枝道があり、団員達が安心してウォーキングできるように私達はこれらの枝道の岐路に立ち、道案内をすることでこの企画が成功するよう陰からの支援をした。

団員が見えると「ごころうさん！頑張つて！こちらですよ！」と手合図を込めて道案内に努めた。お陰様で道に迷う団員は一人もなく無事終了することができた。

八月六日は竹細工で花立を作ったが、竹細工名人、綾部経雲先生指導のもと、竹の元と末の見分け方、

ノミ、小刀など道具使用の注意点の説明があり、十二名のグループになり、私達は低学年のフォロワーを中心にいった。花立の作成では斜めに切るのに苦労したり、小刀やノミの使用は初めての団員も多く、最初はこわごわの手付きであったが、最後には全員が花立を作成することができ、自分の作った作品を観て「よくやった」という満足感がこちらにも伝わってきた。

### 笠寺支部総会開催

笠寺支部事務局長 二村鏗児



六月四日、市内緑区大高町内公民館において第三十回笠寺支部総会を三十一名出席のもとに開催した。初めに物故会員のご冥福を祈念、支部長あいさつ、つづいて長寿会員にOB会長からの寿詞の伝達と支部からの記念品が贈られた。また新入会員の紹介もあった。

来賓には東海鉄道事業本部管理部今井課長代理、現業機関からは大高、笠寺両

駅を管理する大府駅長のご臨席をいただいた中で、万博後の来賓の方々から祝辞をいただいた中で、

JRの現状と今後の取り組み方、大高駅の設備改善、新駅の建設等近況を述べられた。

OB会名古屋地方本部からは平井地方本部長を迎え、今後の東海鉄道OB会について会員の増強、JRに対し増取協力を推進していきたい。またOB会報をより充実するためにも短歌、俳句、写真等の投稿をどしどししていただきたいと要望された。

つぎに参議院議員中島先生からの「ごあいさつ」のご披露があった。

議事は原案どおり承認可決され本年も会員の増強、JRへの増取協力と前年度好評であったカラオケ、グラウンドゴルフ、ゴルフ等レクリエーション活動を強力に推進し会員相互の親睦を深めることを申し合わせ懇親会に入り、和やかな一日を過ごした。

### 西濃支部定期総会

西濃支部長 永臺守夫

平成十八年五月二十日午前十一時から平成十八年度西濃支部定期総会を大垣市北地区センターにおいて開催しました。

新組織移行後二回目の総会でありましたが、五月二十一日岐阜県下呂市で全国植樹祭が行われ、天皇、皇后両陛下が御臨席になり、「お召し列車」が運転されたため、JR東海からの御来賓は少なかったのですが、地方本部から平井本部長の御出席をいただき、会員九十名が出席して盛会となりました。

総会に先立って、昨年総会以降一年間に亡くなられた十四人の会員の冥福をお祈りして黙祷を捧げ、総会に入りました。

総会は、米寿六人喜寿十七人の方々へ賀詞を贈呈した後議事に入りました。永臺支部長から新組織に移行して一年、JR東海様をはじめ関連各社様のご指導、ご後援とOB会皆様のご理解とご協力により順調な

経過を辿っている事を報告し謝意を表わしました。  
この後

(一) この一年間の支部会員数変動は新規加入者が十八名ありましたが、死亡者十四名、体調不良等による退会者が十名あり会員は六名減少して三百二十五名となったことを報告し、会員増強が最重要なことであることを強調して一層の協力をお願いした。  
(二) 昨年七月から会報発行時に合わせて発行している「西濃支部だより」の更なる充実をはかるため会員からの投稿と協力をお願いした。

(三) 支部に「ウォーキング・ゴルフ・旅行・俳句」その他の同好クラブを結成し会員相互の親睦とOB会の活性化を図っていくことを提案した。

最後に今後もJR東海様をはじめ関連会社様のご指導とご協力を受けて会員増強をはじめOB会の発展に努めるとともに私達としても微力ながら各社様の業務に少しでもご協力する努力をしていきたい。

以上の事項について会員に語りかけ賛同を得た。  
このあと十七年度の決算、十八年度の予算を承認して総会を終了しました。  
引き続き懇親会に移り、和やかに近況を語り合い、お互いの健康を祝し合い励ましあつて大いに盛り上がり午後二時に散会しました。

### 東海鉄道OB会活動便り

東海大阪地方本部東支部事務局 藤田義晴

五月二十一日、前日までは接近中の台風一号の影響で風雨ともに強く、危ぶまれた天候であったのが嘘のように晴れ渡り、澄み渡った五月晴れの空が京都の町を覆いました。

午前十時に地下鉄の蹴上(けあげ)駅に集合したメンバー十一人は、眩しい陽光に目を細めながら一路南禅寺への散策の道を進みました。

南禅寺では小堀遠州作の庭園や明治期に日本人の手で作られた赤レンガの水道橋に驚嘆の声を上げながら哲学の道へと歩みを進めます。

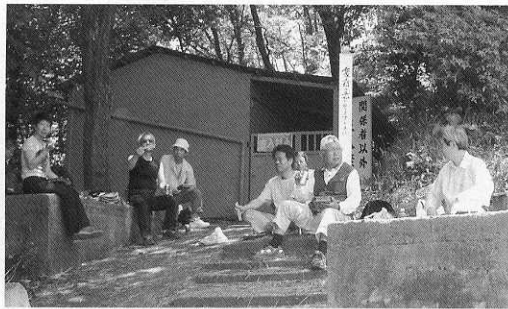
哲学の道では桜の若葉が空を覆っているため太陽が瞬きするような日差しの心地よさを満喫しました。

銀閣寺道には修学旅行の団体が道端の店の女将さんからお土産を勧められ困惑しながら歩く姿に初々しさが溢れていました。

さあよいよ最終目的である大文字山に差し掛かりました。ここはさすがに修学旅行生はいませんが、多くの老若男女が思い思いの服装で目的地を目指していました。中には九十歳の男性も含まれていましたが、胸を張り一足一足を確実に進める姿には何かしら感じさせられるものがありました。

火床に到着しました。さすがにハイキングのメッカとなるだけの価値があります。眼下には京の街が一望に広がり、うらかな春の陽にキラキラと輝いているようでした。

何人かは山頂まで足を運びましたが、残念ながらここでエネルギーが切れた人もいて、待ち遠しかった昼食となり、木陰に入って乾杯です。汗で湿った首筋を撫でる五月の風と、乾いた喉に流れるビールは最高の御馳走となりました。



「寿命が延びたように感じるね」

こうして、参加した皆様も大変喜んでおられ、早くも「次回は明日香村へ行こう」との声も出ており、楽しいハイキングは盛大に終わることができました。

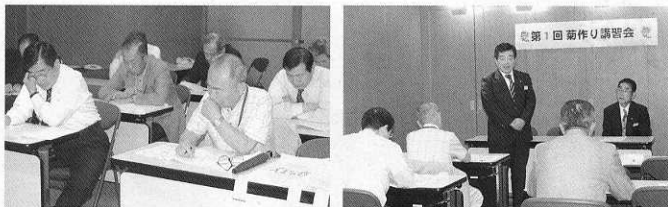
### 第一回菊作り講習会の開催

東海大阪地方本部事務局 高森仁司

平成十八年五月二十六日(金) 十三時三十分からジェイアール東海関西開発(株)の会議室において、東海鉄道OB会東海大阪地方本部の四支部から十五名の参加を得、菊の作り方を学ぶ講習会を開催いたしました。

講師はJRK分会の井上さんで、土作り、追肥、柳芽処理、鉢移植等々、菊作り十二ヶ月の作業という内容の講義をして頂きました。

今回、OB会員が同じ趣味を持つ者同士の情報交換の場所として、菊に対する関心と菊作りの技術の向上等々有意義な講習会となり、参加者には井上講師から菊の苗木がプレゼントされました。



### 「第二回ゴルフコンペ」盛大に開催される

東海大阪地方本部事務局 高森仁司

東海鉄道OB会東海大阪地方本部主催の第二回ゴルフコンペが「信楽カントリー倶楽部・杉山コース」において四十名の参加者を迎え盛大に開催されました。

あいにくの小雨の中でプロと自認する名選手達もOBを連発、ゴルフ談議に花を咲かせていました。

- ①平成十八年四月十日 八時二十分スタート
- ②参加者 四十名



# JR東海ト

# ピックス

JR東海硬式野球部

## 第77回都市対抗野球大会 JR東海硬式野球部

### ご声援ありがとうございました

東京ドームで開催された、第77回都市対抗野球大会に2年ぶり22回目（JR発足以来4回目）の出場を果たしたJR東海硬式野球部は、8月29日の第1回戦で前年度、日本選手権大会優勝チームの松下電器（門真市）と対戦し、延長13回の死闘の末、劇的なサヨナラ勝ちを収めました。感動の幕切れに3塁側を埋めつくした約6千人の大応援団は、大いに沸き上がりました。

続く9月2日の第2回戦では、TDK（にかほ市）と対戦し、主砲の青山選手が2本塁打を放ち中盤まで優位に試合を進めましたが、延長10回2対3で惜敗しました。

今大会では、予選を通じて投手陣を中心に粘り強く戦い抜くことができました。

強豪の松下電器、今大会の優勝チームTDKと互角に戦ったことで、来年以降も益々の活躍が期待できます。

OB会の皆様の温かいご支援、ご声援ありがとうございました。

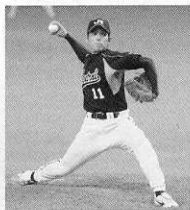
### 1回戦・感動のサヨナラ勝ち/2回戦・優勝チームに惜敗



▲【1回戦】延長13回、日野原のレフト前ヒットで青山がサヨナラのホームイン。



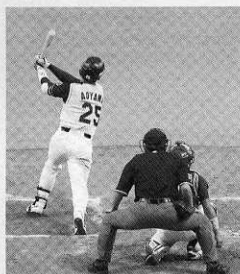
▲【1回戦】初回、佐々木のタイムリーで先制



▶【1・2回戦】エース中須賀が力投



▲たくさんの方々にご声援いただきありがとうございました。



▲【2回戦】青山の2本塁打が飛び出す

【1回戦】8月29日（火）vs 松下電器（門真市）

チ ャーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	計
松下電器	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3
JR東海	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	4

【2回戦】9月2日（土）vs TDK（にかほ市）

チ ャーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
JR東海	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
T D K	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3



**山田信義**  
主将

多くのOB会の方々から東京ドームへお越しいただき、ありがとうございました。初戦の松下電器戦では、苦しい戦いではありましたが、スタンドの熱いご声援の後押しもあり、初戦突破することができました。

2回戦の敗戦を今後の糧として、来年は「日本一」を目指し、練習に励んでいきますので、ご声援よろしくお願いします。



**家接順也**  
監督

2年ぶりの都市対抗野球大会出場にあたり、1回戦の松下電器戦では延長の末、勝利を収めることができました。これもOB会皆様方の大きなご声援の賜物と感謝申し上げます。

2回戦の悔しさを忘れず、更なる飛躍を目指していきたくと思います。今後ともご支援ご声援の程、よろしくお願いたします。



**坪内良人**  
野球部長（総務部長）

この度の都市対抗野球大会には、多くのOB会の皆様から力強い応援をいただき誠に有難うございました。1回戦の松下電器戦では、チームの信条である粘りの野球で初戦突破を果たすことができました。スタンドからの温かいご声援は、選手たちに勇気と力を与えていただきました。

今後も一層の努力をしておりますので、ご支援賜りますよう宜しくお願いいたします。

### ◆ JR東海トピックス ◆

事業推進本部

## 分譲マンション、商業施設、宅地分譲として開発 東区明倫町(名古屋) 社宅跡地 開発計画の概要決定

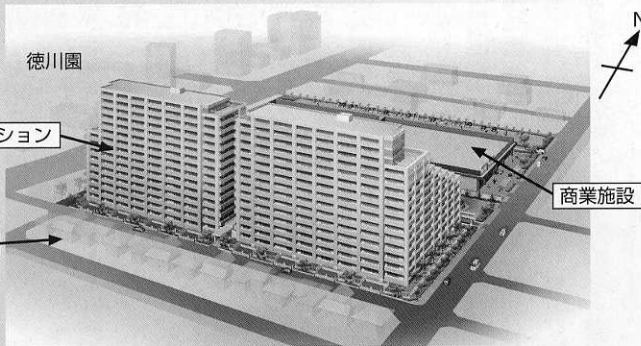
昨年秋より販売し、ご好評のうちに完売いたしました「セントラルガーデン・レジデンス（I期）」（名古屋市中種区高見）に続き、東区明倫町社宅跡地で行う開発の概要が決定しましたのでお知らせします。

計画地は、JR中央本線大曾根駅から徒歩7分と交通の利便性が高く、近隣に徳川園があるなど良好な住環境です。こうした環境を生かしながら、全体で約2万7000㎡の敷地を3つに分け、それぞれ分譲マンション、商業施設、宅地分譲として開発を行います。分譲マンションは、総戸数255戸で、一戸あたり平均専有面積約90㎡とゆとりがあり豊富な間取りの設定となっています。南向き住戸約90%、免震構造、24時間有人管理等、高品質でセキュリティの高い仕様のマンションをジェイアール東海不動産(株)と共同事業者である三菱地所(株)・三菱商事(株)が分譲する予定です。ジェイアール東海不動産(株)が行う宅地分譲については、13区画（一区画当たり平均約60坪）を予定しています。

また、商業施設は食品スーパー「マックス・パリュ（イオン）」の他、飲食・物販等の店舗が入る施設となる予定です。商業施設は平成19年春開業、分譲マンション

の引渡開始・宅地の分譲開始は平成20年春の予定です。

ただいま、分譲マンションの情報をいち早くお知らせする「セントラルガーデンクラブ」の会員を募集しています。詳しくはセントラルガーデンホームページ（<http://www.centralgarden.jp>）をご覧ください。



▲計画地完成予想図  
※この絵図は、図面を元に描き起こしたもので実際とは多少異なる場合があります。

東海鉄道事業本部

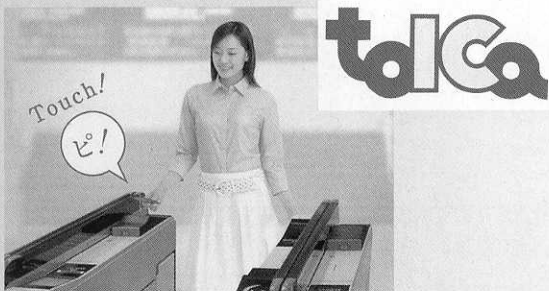
## 在来線ICサービス「TOICA」の導入 11月25日サービス開始に先立ち、 モニターテストを実施

名古屋エリアで導入準備を進めてきた在来線ICサービス「TOICA」を11月25日よりサービス開始します。これに先立ち、実際に使用する環境下での最終的な確認のため、モニターテストを実施します。

モニターテストの実施区間は、名古屋エリアのサービス導入エリア74駅のうちの22駅（東海道本線・刈谷・岐阜間、中央本線・名古屋～春日井間）で、まず、9月2日から10月15日までの期間に、当社社員約150名を対象に実施します。また、9月30日から10月29日

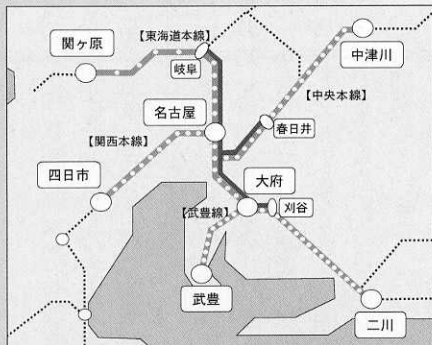
までの約1ヶ月間、事前に公募したお客さま約800名にご参加いただき、最終的な確認を行います。

お客さまを対象としたモニターテストでは、1500円分の利用可能金額をあらかじめ入金（チャージ）したTOICAをお渡しし、必要により追加チャージしていただきながら、モニターテスト区間で自由に利用いただきます。テスト終了後は、アンケートにお答えいただき、サービス開始に向けた最終準備に役立てていきます。



### TOICA導入エリア・モニターテスト対象エリア

- 導入エリア（74駅）
- 東海道本線（36駅）：二川～関ヶ原、中央本線（18駅）：名古屋～中津川
- 関西本線（11駅）：名古屋～四日市、武豊線（9駅）：大府～武豊
- モニターテスト対象エリア（22駅）
- 東海道本線（16駅）：刈谷～岐阜、中央本線（6駅）：名古屋～春日井





# 名古屋セントラル病院の紹介

## 医療情報システム化の推進

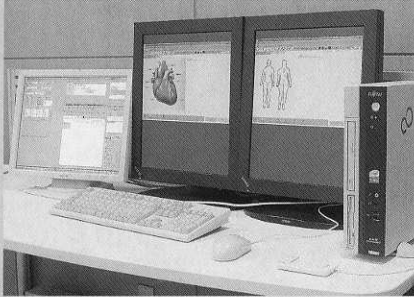
名古屋セントラル病院では新病院移転に合わせて、電子カルテを中心とする医療情報のシステム化を行いました。医療情報のシステム化を行うことで、様々なメリットが期待できます。

### ① 「システム化によるメリット」

診療に必要な情報(受付情報、検査指示・結果など)が即時に伝達され、患者さまの待ち時間を解消するとともに、カルテ搬送業務などの省力化を図ることができます。

### ② 「情報の共有化(チーム医療の実現)」

カルテを始めとする患者情報を一元化することで、医師、看護師、技師などのスタッフの間での情報の共有



▲電子カルテ端末

化が可能となり、高度なチーム医療が実現できるようになります。

### ③ 「医療過誤の防止」

IDリストバンドにより、点滴・手術などの際のヒューマンエラー防止や、指示などの転記誤りを防止することができます。

### ④ 「適切な物品管理」と「効率的な病院運営(経営管理)」

病院で使用する物品の購入、在庫、使用量などを把握することで、適切な物品管理が可能となります。また、収入・支出に関するデータを取り込むことで、患者別、診療科別など経営管理に必要なデータを活用することが容易となり、効率的な病院運営を行うことができます。



▲IDリストバンドの確認

平成15年に新病院移転計画を決定して以来、開院に向けて着実に準備を進めてきましたが、今年7月に移転作業を完了し、名古屋セントラル病院として新病院の開院を迎えました。

7月7日には病院建物が竣工し、葛西会長、松本社長他、関係者による竣工式、記念のテープカット、植樹式を行いました。

13日から17日にかけて設備、機器等の移設を行った他、16日にはJR東海総合病院の入院患者さまを新病院へ移送しました。安全第一を基本に、病



▲竣工記念テープカット

院職員の大半が参加するなか、救急車5台を利用するなどして73名の入院患者さまを無事にスムーズに新病院へ移送することができました。

そして開院日である18日には外来診療を開始しました。電子カルテを中心とした情報システムは順調に稼働し、大きなトラブルも無く診療を開始することができました。20日からは人間ドックも開始しています。

今後とも職員一丸となって、「患者さまの立場にたった、安心で、快適なまごころのこもったサービス」で、質の高い先進的な医療を提供していきます。



▲開院日の院長訓示



## ///グループインフォメーション



“さらなる真心サービスの向上”を目指して  
**名古屋ターミナルホテル(株)**  
 (ホテルアソシア名古屋ターミナル)

## 記録づくしのターミナル

昨年3月から半年間にわたり愛知県で開催された「愛・地球博」が大きく影響し、当ホテルの年間客室稼働率が「94.13%」という開業以来最高の成績を達成し、名古屋市内主要16ホテル中ナンバーワンの客室稼働率となりました。

また、料飲部門は1階の「カフェ・ジャンシアース」において、今年6月で連続38ヶ月売上目標を達成いたしました。このような記録が達成できたのも、従業員一人ひとりがきめ細かい「真心サービスの提供」をモットーに、業務に取り組んできたことが大きな要因となっています。

## ホテル館内の整備

当ホテルは昭和49年11月28日に営業開始以来、今年で32年目を迎えます。決して新しいホテルとは言えませんが、お客さまに少しでも快適にお過ごしいただけるよう、客室全259室に薄型液晶テレビを導入、冷蔵庫も取替え、さらにホテル内レストランの「プラスリーエスペランス」では、イング



▲年間客室稼働率1位達成(名古屋市内ホテル)



▲全室に導入した薄型液晶テレビ



▲イングリッシュガーデン

リッシュガーデンやパーティールームの拡張等を実施し、お客さまに大変ご好評いただいております。

## 今後のさらなる挑戦に向かって!!

平成18年度は、名古屋駅前再開発として「ミッドランドスクエア」及び「名古屋ルーセントタワー」が順次オープンし、名古屋駅前が新しい時代を迎えようとしています。このような状況の中、当ホテルでは今まで以上のサービス向上を目指し、他ホテルでは見られない独自の研修・教育を展開しています。平成16年のISO取得に続き、「日本経営品質賞」の取得を目指しています。

※日本経営品質賞：「卓越した企業品質を目指して」国際的な競争力を有する優秀な企業を表彰するもの。1995年12月に(財)社会経済生産性本部が創設。



質の高いシステムサービスを提供  
**ジェイアール東海情報システム(株)**

当社(ジェイアール東海情報システム株式会社、以下「JTIS」と略す)は、JR東海の100%子会社として平成11年2月に設立され、今年2月1日に設立7周年を迎えました。

当社の役割は、JR東海及びJR東海グループ各社へ効率的で効果的かつ高信頼な情報システムとそのサービスを安定的に提供することであり、その結果、各会社の業務運営の効率化が促進され、質の高いサービスの提供を可能とすることで、一人でも多くのお客さまにJR東海やグループ各社のサービスを利用していただければと考えています。

この7月にはJR東海エクスプレス予約の取扱い区間を博多まで拡大するため、エクスプレス予約システムの拡張を実施、またJR東海の新しい人事制

度に対応した人事総合システムへの切替も行いました。今後は11月25日のTOICAサービス開始に向けて、システムの各種試験を行っていく予定です。

IT化の進展に伴い、JR東海の子会社としてのJTISの果たすべき役割はますます大きくなってきています。その期待に応えるべく設立以来、業務ノウハウとシステム構築ノウハウの吸収に努め、技術力の向上を図ってきました。

今後ともシステムの安定稼働及びセキュリティの確保を最優先に、JR東海及びグループ各社を主体にシステムサービスを提供していきますので、これからもJTISをよろしくお願いたします。

■ホームページ <http://www.jtis.co.jp>

エクスプレス予約端末



すべてはお客さまのために…  
**(株)ジェイアール東海パッセンジャーズ**

当社は、平成14年10月1日に(株)パッセンジャーズ・サービス(SPS)と(株)ジェイダイナー東海(JD)が合併して誕生しました。現在、社員約1,100名、アルバイト約1,800名で運営しています。

主な事業内容は、東海道新幹線車内における車掌業務、新幹線及び在来線の車内販売、弁当・サンドイッチ等の製造、加工、並びに販売、飲食店の営業等です。

事業所として、東京から新大阪間にそれぞれ支店(営業所・工場を含む)、列車営業支店を配置しております。

平成17年度から「ブランドオリティサービス運動」を新幹線鉄道事業本

部の指導のもとに展開しており、今年は

これまでの取り組みをさらに深度化させるとともに、「信頼に応える時間をお約束します」「喜びの瞬間をつくりだします」をテーマに取り組んでいます。

また、私達は、快適なご旅行のお手伝いをさせていただくとともに、安全で美味しく食べていただけるお食事を提供することをモットーとしております。今後とも皆さまのご利用を心待ちにしております。



▲パーサー(列車乗務員)による車掌業務



▲ざんご磯むら日本橋店



▲駅弁販売店舗の様子



2006年秋



いつでも誰でも気軽に参加できる

# さわやかウォーキング

参加費無料

一部のコースを除く

予約不要

一部のコースを除く

駅がスタート!

一部のコースを除く

12/23<sup>祝</sup>まで 好評開催中 土・日・祝開催



名古屋・飯田地区

34コース

12/3<sup>日</sup>まで



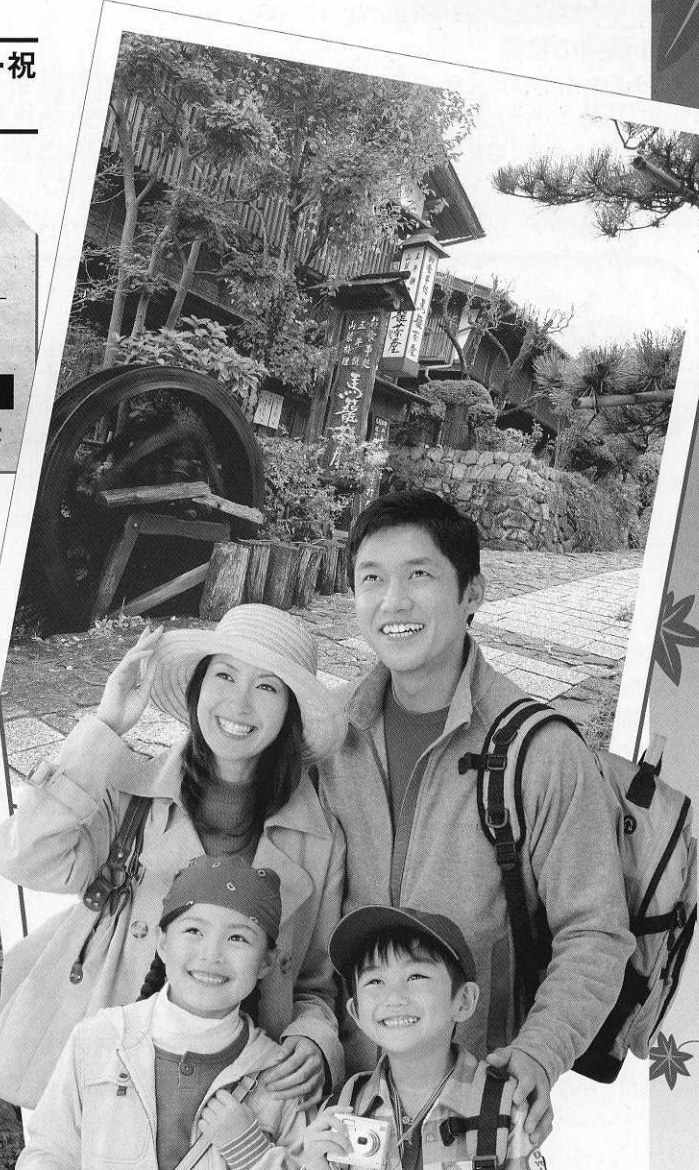
静岡地区

28コース

12/23<sup>祝</sup>まで

さわやかウォーキングに、便利でお得なぎっぷ。

名古屋地区 ▶ 青空フリーパス 静岡地区 ▶ 休日乗り放題ぎっぷ



名古屋地区

15th もうすぐ100万人!

ありがとう  
キャンペーン実施

静岡地区

「おかげさまで50万人」  
ありがとう

開催については、JR東海の駅にある専用パンフレットをご覧ください。JR東海ホームページ <http://jr-central.co.jp>



# 読者のひろば

## 過去の思い出と将来に望むもの

藤枝支部 戸田速雄

昭和三十年代、世の中が高度成長時代と言われ生産性向上運動が叫ばれた時に将来を見据えた講演会で講師が「これからは機械化・近代化が進み、人の力は多くを必要としない時代がやって来る。この近代化の時代を乗り切る為には、少数精鋭主義で対応しなくては成らぬ時代がやって来るが、更に将来に向け生きて行く為に必要な「少数精鋭主義」に対する考え方・取り組み方は、今迄の考え方を払拭し、近代化・合理化に対応出来るものでなければならぬ。その理由は精鋭と言われる人間を創り出すには時間と金が必要となり、育成が追いついていけない。採るべき道は「少数にすれば精鋭になる」の講演があった。誰しも想像していなかった主張を自信たっぷりに口にした。聞く我々は一抔の不安もあったが誰しもが成程と頷た。あれから混沌とした三十年が過ぎ、国鉄はJRに衣替えし、結果誰が見ても解るようあらゆる面で驚く程に明るくスマートに変った。中でも更に驚くのは各事業所とも少ない社員で運営されている事である。少数精鋭主義の時代の到来である。機械化・近代化という時の流れが齎らした結果なのか。経営陣の方針なのであるのか。駅では出札・改札の客扱い・ホームの列車扱い乗客案内に、更に構内での貨車の入れ替えから、線路の保守及び乗務する車掌や車内検札の車掌に至るまで、我々の様に国鉄時代の古い考えを持った者には吃驚するばかりか考えられない程の少数数である。生産性の高さは他の民営鉄道に引けを取らぬばかりか、

それ以上に感じられる現状であり、その結果は充分に株価に反映されている。三十年間の時の流れだけではなく、経営方針の中に伝統の「時と金を掛け、少数精鋭体制を造り出した」のか、我々の知る由も無いが、何れにしても其れらが容易となったのが今のJRの現状のように感じられる。年寄りの冷や水かも知れないが国営企業であったとしても民営化で株式会社となれば営業成績向上以上に株主対策、株価に関心を持つのは当然かも知れないが、公共的の企業体である事には変りは無い。今話題の同じ国営企業であった郵政の民営化とは根本的に違うと思う。人命を預かり高速大量の輸送機関であり計り知れない幅と深みが考えられる東海地震も含めた安全対策については金に換算出来ぬくらいの幅が考えられるのと将来出てくるであろう過疎地域の不採算線区対策として安全対策積立金と公共施設対策積立金対策が設けられることを願うものである。

## 戦時追想の一コマ

岐阜支部 奥村元士

古い思い出話で恐縮です。

昭和十六年あの大戦開戦の前のことである。軍隊輸送の臨時列車がよく運転された。臨時ダイヤだから待避列車となる場合が多く、当時勤務していた尾張一宮駅で、長時間、待避列車があった日のことである。

当日、私は出札兼務の電信担当をしていたが、ホームから飛んできた案内掛が両ポケットに一ぱいの小銭やらメモ用紙を詰め込んできた。

車中の兵隊から自宅へ「元気で出発」などの電報を依頼されたのである。戦争も激しくなると防諜上の理由から、このようなことは許可されなかったと思うが、そのころはまだいくら自由のようであった。

持ち込まれた電報はざつと百通近くあるかと思われ、出札業務が主で電報扱いは徒らなっていて、一日平均二十通ほどの取扱いだっただから、これは一大事と驚愕した。

二十分や三十分で終わる通数ではない。部屋の二、三人に応援を求めたが、メモから頼信紙に転記するテンヤワンの作業となった。

でき上った電報は私が相手の名古屋へ送信する。この電信回線は四駅が連なっていたが、長時間独占使用することとなった。

名古屋もあまりに連続送信するので驚いていたらしが、三時間以上は経過したと思われるころ、ようやく終了した。

一刻を争うのは電報の使命ではあるが、仕方ない結果であった。

だがこれだけで済みではなかった。電報料金は郵便切手でと規定されていたから、売店で料金に見合う切手を購入し、電報に貼付消印することとなる。これら完全終了は深夜に及んだ。

平日とは違う異常な電報扱い量は一般郵便局以上の扱い量だったと思われたが、無事遂行し終えた爽快、快感に浸ることができ、疲労感もなく安堵の仮眠に入ったものである。

だが今になって考えると、この日の電報を依頼した兵隊諸氏が無事帰還されたとは思えないし、家庭に着いたこの電報が唯一最後の便りとなった方もおられたのではないか。戦争による残酷な一面も回想されて悲しい思い出もなっている。



## 三重短期大学を卒業して

津支部 波多野照生

本年三月二十一日は私にとって記念すべき節目の日となりました。二年間の学生生活を無事終え「学位記」を取得できたからです。

入学の動機は①津市の広報誌で三重短期大学が生涯学習を奨励していた事②私自身、仕事は技術一筋で来たので文系の方面の勉強もしてみたいと考えていた事③自分だけで何か始めてもすぐ挫折してしまうので、人の輪の中に入るのが良いと考えた事等です。

卒業単位は六十六ですが八十単位を取得出来ました。健康と多くの方々の協力、幸運に恵まれての事と感謝しています。授業については気楽に講演会にでも参加するようなつもりで出席さえしていれば単位を認めもらえる位に考えて居ましたが、公立の短大だけに内容は厳しいものでした。各講義毎に必ずテストかレポートの提出を求められました。法律分野の授業が多く全体の三割五分を占めています。六法全書はいつも持参です。憲法講義では九条二項を変えようと徴兵制が復活するのではないかとの議論が憲法学者にありました。二十一条の「表現の自由」が民主主義の根幹をなしているとの事です。どの法律の講義でも判例が多く引用されました。裁判所は最高裁の判例を法規範として裁判の判断基準としています。刑法は「人」を犯罪を犯す者と、犯罪の対象と成り得る者として構成されているのに対し、民法では「人」を民法上のあらゆる権利義務の主体と位置付けています。民法は財産法と家族法の二講座でした。財産法の先生は①「不動産取得時は必ず先に登記をする事」、②「動産は現物を自分の手許に引き取る事」③「他人の保証人にならない事」の三点を強調されました。家族法は親族、婚姻、

親子、相続など身近な法律です。血族六親等までが親族の範囲、自分の卑属では孫の孫の孫まで、と範囲は広範です。一方、自分の子の配偶者の親とは、法律上は何の関係も無いとのこと。

相続人は通常の場合は配偶者、直系の子がなります(養子もOK)。その他の場合は面倒ですからシングル資産家は考えておく事です。経済商業分野として金融論、経営学、マーケティング論、経済史を、行政分野では財政学、地域政策論、都市計画論を受講しました。教養科目では文学、哲学、美学、西洋史等を学びました。

英語も九十分間通年で受けました。これは必修科目で、「異文化をつなぐ英語」と言うテキストを各自、数行ずつ出席順に音読し翻訳するのは骨の折れる事でしたが、美人先生に励まされて少しずつ上達しました。パソコンや部活も有りましたが割愛します。

## 思い出 鉄道職員のプライド

西濃支部 澤邊邦雄

JR東海では会社の株式をすべて取得することによって、完全民営化を実現することとなり誠にめでたいことでもあります。我々OBとしても大変嬉しく肩身の広い思いを致しております。

ここに到るまでの経営者を始め、全社員の方々のご努力に改めて敬意を捧げ且つお礼を申し上げます。新聞紙上で時たま目を通す株価もJR他社に比して一頭地を抜いた観があるのを眺めて、我がことのように嬉しく思っています。

ところで私たちの町では最近、JR社員は大変高給を貰っている等という羨望の声が聞かれます。私には給与については今では全く感知していないので高低の

判断はつきませんが重要な輸送の任に当たっている社員がある程度の待遇を受けるのは経理が許せば当然のことと思っております。

老人の昔語りになりますが、戦前に国鉄に就職した人達は国鉄に入る事がどれほどの難関であったかを、記憶されていると思います。

高等小学校卒業者の場合、全校で一、二位の者でないで学校から推薦を受けることが出来ないとか、それでも受験者は採用定員の二、三十倍というのが例年のことでした。

旧中卒の場合でも試験官が「今年は競争率が九倍です」等といっていました。

当時市役所の初任給が日給で五十銭、県庁では六十銭、国鉄では一円十銭でした。

一般の常識をはるかに超える給与であった訳です。それもその筈、国内輸送の大動脈を担い、二交替二十四時間勤務で夜間の休養時間は四時間未満、公休は月間に一日と言った苛酷な勤務に甘んじたため、呼吸器疾患に倒れて途中退職する者が多く、然も危険を含む職場環境や作業のため殉職したり傷ついたりするものが後を絶たないという状況は、現今のごとく前線職場へ女性を投入するなどはとは考えられない職業でありました。当時の鉄道職員の中には勤勉で努力家で小学校出身の身ながら猛勉強の末、当時の高等文官試験に合格したという人を耳にしたことがあったものです。採用条件には学科の難関ばかりでなく、健康診査も厳しく更に身元調査の結果も重要視されて、家系に犯罪者があったり、近隣の評判のよくない者は採用されないとといったハンデがあったため、鉄道職員に採用された者はおおげさに言えば選民意識を持っていたといっても言い過ぎではないと思います。

今では考えられないことながら私服に下駄履きで国鉄の制帽を被って町を行く人を見たことがあり、余程



国鉄職員であることに誇りと喜びを抱いておった人と思えました。当時は国鉄は国営であったため、官に仕えていたということで、民間からは官員様などと言われたりして肩身の広い思いもさせられたものです。そんなことから、現今八十歳を過ぎた位のOBの方には実に優秀な人達がおられると思っております。現在の社員の方々もJRの業績の好調に伴い採用試験も難関を呈しておるようであり、他の企業に勝る職域として羨望されるまでとなっておりますので、自信と誇りを抱いて職域に尽瘁されておられることと思います。

当時、鉄道教習所で教わった「国鉄精神の歌」の一節は

轟け鉄輪わがこの精神

輝く使命は厳たり響けり

栄えあり交通思えよ国運

奉公ひとえに身をもつて捧げん

国鉄 国鉄 国鉄 国鉄

いざ奮え我ら 我らぞ

大家族二十万人

奮え我ら

と言うもので、当時の国鉄職員に求められた使命と意気込みとを思わせるものがあります。

## 大蛇のお客さま

千種名東支部 児嶋守好

もう十五・六年、いやもつと以前かも知れないが、国鉄OBで長久手町の町会議員で故人となられた、寺島藤夫さんがあるとき「児嶋さん、ボランティアの仕事で、あなたに最適な仕事があるが、やってもらえませんか、仲々適当な人を見付かりません。」という話、私も仕事を離れてから年金をたよりに、趣味と遊びに

毎日を送っていて世の為になることは何もしていないので、「私で出来ることなら、やらしてもらいますが、一体どんな仕事ですか」というと「実は長久手町に中部研修センターという施設があって、外国人の青年男女に日本語を教えている。その青年男女は海外に進出している日本の有名な大企業が現地採用した人々で、特に将来幹部となる人達である。日本語は正式には教師がいるが、研修生がある程度修得した時、日常会話に慣らしたい。その相手になる人をやってほしい」ということであつた。

それなら私にも出来そうだとということで、月に二回程、一回に一時間半くらい日常会話の相手をした。センターは我が家から三軒くらいのところ、自転車通い、場所は多く喫茶店を使い、三人くらいを相手にした。研修生は東南アジアの人を主として、中国、韓国、フィリピン、ネパール、インドと多くの国々の人であり、顔の色もまことに様々である。

年に二回くらいパーティーがあり、各国様々な模擬店を出して、珍しい酒食でもてなしてくれたこともあつた。ある時担当の人があなたの様な人がもつと必要だがないだろうか、と云うので、早速、友人の岩崎道昭さんに話をしたら、快諾を得たので、二人で通っているうちに研修センターが引越すことになってしまった。行く先は豊田市ということで、私はもう通えないから止めようと思っていたら、岩崎さんが「私の車よかつたら行きませんか。」と云って下さったので、有難く甘えて今日まで、あれからもう十年くらいたったように思う。

まだ、話の内容のことを云っていないが大抵は先ず、お互いに自己紹介して、私は必ず日本の第一印象を聞く。殆んどの人が日本はキレイだという。それから、家族のこと、食べ物、気候、会社の仕事のこと等で日本の食事では、案外多いのはスシがうまいとい

うが、刺身はいやという。反対に南方は果物が豊富でマンゴスチーン、ドラアン等、日本では食べられない果物の話はうらやましい等様々である。

以上の話はただどしい日本語で話をしてくれるが、それらの人々の中で中国人がもつとも話がしやすい。漢字が共通であることは全く便利である。

以上のいろいろの話の中で、一番、驚き又珍しく思った話は次のような話である。

あるインドの青年の話で

「私の叔父さんの家に一週間に一度必ず大蛇が訪れるという。大きさは子供の胴回りほどで、何処からともなくゆつくりと庭へあらわれる。叔父さんが食物をあたえる。それをうまそうにすっかり平らげて、又ゆつくり帰ってゆく。何もわるいことはしないし、その態度が悠々としていて、恐ろしいこともない。」と平然と語った。

こんな話は以後聞いたことがない。

研修生は、日本系の会社に勤めているせいもあつてか、真面目で私共に対する態度も丁寧で気持ちがいい。お陰様で多くの外国の人々と話が出来て珍しい事、沢山の話題、知識が得られるチャンスをあたえてくれるのがこのボランティアである。なるべく長くつづきたいと思う。

## 80・20運動

名古屋工場支部 吉田慶久

「80・20」運動（ハチマルニイマル運動）とは「愛知県歯科医師会」が主催する、八十歳になつても二十本以上の歯を保つように努力する運動の事で、皆様もご存知の事と思います。

私はこの度、昨年满八十歳になりましたので、いつ

もお世話になっておりました歯科医院で、再検査して戴きましたところ、自分で思っていたよりも多く、二十二本ありました。歯科医師の先生から、表彰の申請をして頂き、本年それを受ける事が出来ました。私たちは、高齢化が進むにつれても、健康で皆さんにご迷惑を掛けないで、少しでも長生きしたい欲望があります。その為には自分なりに出来る事は工夫や努力をして、日夜邁進しております。

戦後食生活も豊かになり、どんな食べ物も好きなだけ口に入る世の中です。それでもその食べ物も美味しく戴けるのは丈夫な歯が多くなければなりません。折角のご馳走も楽しく戴くことは出来ないと思います。知らず知らずの内に歯が悪くなって、歯医者に駆け込む事になります。そうなるからでは手遅れです。生活の中で常日頃から、歯の管理を行い、多くの良い歯を残しましょう。

私は戦後四年間「シベリア」に抑留されておりました。その間、体力は衰えながらも昭和二十四年の十月に無事復員しました。折角生き延びたこの弱った体を戦前の様な元気に働ける体にする為には、戦後の事で物資が十分ありませんでしたが、まず食べる努力をし、体力の回復を計る事が必要でないかと思いました。それには丈夫で長持ちする強い歯が必要だと気がつきました。「シベリア抑留中」で体は弱りましたが歯だけは辛うじて多く残っておりますので、これを大事に管理して、長持ちさせようと思ひ、今日までまいりました。

管理の第一歩は毎日欠かさない歯磨の励行と定期的な検査を実施する事にしました。現在でも三ヶ月に一回、必ず歯科医院に掛り、検査をしていただいております。今では三ヶ月が過ぎると、医院から検査の連絡が入るまでになっております。私の歯磨は特に「寝る前」に重点を於いて実施しております。

又、良否は分かりませんが寝る時は必ず、「マスク」を掛けて寝ます。夜中に「トイレ」に起きた時は「ウガイ」を二〜三回行う事を励行しています。この様に行ってきたお陰で毎日の食事も美味しく戴き、体調も至極健康です。年齢的には、どこも悪いところが見当たらないと、掛かり付け「内科医」の先生からも認めて戴いております。

## 迷い路

長泉支部 杉山安秀

私は少年の頃から、「将来は作家になりたい。」と夢見て幻想にとりつかれておりました。それなのに、旧国鉄に就職したのは、父の意向に逆らえなかった事情があったからでした。



最初の職場は東京車掌区で十八歳でした。下宿先が目黒だったので、そこから東京駅まで通い始めました。しかし、どうしても職場に馴染めず、意欲が湧かず、悶々たる日々を過ごしました。電車に乗って出勤しても東京駅に降りずに上野公園や浅草など、無断欠勤という苛責の念に苦しみながら当てもなく、放浪する日もありました。

暗くて孤独な日々の中にも、ドストエフスキの「罪と罰」。トルストイの「アンナ・カレーニナ」などの本に親しむとき、限らない感動と胸躍る魅力に惹かれ、生き返った思いに漬りました。

三ヶ月位経った頃に、車掌見習いの採用試験が行われました。結果は不合格となり八方塞りの身となって

しまい、辞めるつもりで実家に帰ってしまいました。しかし父は激怒して家には上げてくれず、私を追い帰しました。悲し涙を堪えて夜道を戻りました。

作家になる為の条件は一人身で、自由であること。と想像していたので結婚ということは論外と考えていたが、父の考えに、又、親不孝という弱身に押されて、二十四才で結婚しました。結婚生活は案の定、家族という足手まといに晒され、呻吟するばかりでした。

「俺は中途半端な人間で駄目な男だ。」「生きてゆく資格がないのではないか？」とニヒルに陥りました。丁度その頃、「人間失格」という太宰治の本を読み勇気づけられましたが、太宰治は多摩川に身を投げて命を絶ち、この時は心の支えを失ってショックでした。

結婚して、夫婦や親子の絆というものは何よりも重いものだと知りました。無心に眠るわが児を見るにつけ、責任を悟りました。

私が何故マラソンを始めたのか、自分でも分かりませんが、走り出すと鼓動が脈打ち、血液が五体を駆け巡って体が暖まり、吐く息とともにSLのように心地よい気分になりました。「人生は重き荷を背負いて坂道を登るが如し。」といった林美美子の放浪記などを心に刻みながら走りました。又、河口湖や中禅寺湖などの大会にも参加したり、転勤先の駅のホームを何回も折り返して汗を流しました。国鉄の使命である、安全、正確、迅速といった職務と抱き合わせで定年まで、ミスもなく誠実に勤めることが出来ました。

老いて落日の儂さを知る今日。若き日に抱いた夢は消え去りましたが、都大路の青山、赤坂辺りを走ったことや深夜一人でホームを走ったときの光景など、又、マラソン大会でゴールでタオルと着替えを持って笑顔で迎えてくれた妻の面影などが若き日の一コマ一コマが自画像とともに鮮明に浮かんで来て、私の棚心から消え去ることはありません。



短歌

あまたなる兵の眠れる南冥の

鳥々を見て空の旅行く

蝶が舞い色あざやかな虹が出て

びしょぬれて見るイグアスの滝

身延支部 深沢 満

製氷機より落ちる水の音にさえ

苛立ちており眠れぬ夜は

齒科医院の窓より見ゆる君が畑の

葱のみどりよすつきりとして立つ

中津川支部 細江 勲

鈴蘭の香りに憶ふ兵の日に

幾歳待ちし北満の春

たはやすく君死に給うなシベリアの

ノルマに堪えし命なりせば

裾野支部 池谷秀夫

親しみし駅の時計も外されて

市の玄関無人となりぬ

駅ホームの水車久しく動かざる

石置き屋根の石の重たし

上伊那支部 竹内滋一

夕の五時少しばかりのアルコール

のどに落しぬ気分悦楽

晴天の続きしゆえに水欲しか

茄子の紫薄れてきたり

浜松支部 原 哲

梅雨あけの灼けつく畑に草を抜く

目に沁む汗に周囲のかすむ

青田面も鈴鹿嵐に揺られて

奏でるように大波小波

四日市支部 小川 勇

俳句

新酒にて乾杯我れの誕生日

白熊の形くづれて秋の雲

味噌汁の里芋うまし冬日和

沼津支部 山田寿男

若水を汲みて一日始まり

曾孫よりメールにてくる雪達磨

孫活けし千両の実鮮やかな

春日井支部 秋田濠子

部屋移し写経三味盆の風

咲けば散る人の世はかなし庭桜

青簾あざな吊し机の位置を決め

名古屋臨港支部 伊藤鈴登

藤棚や話の長き車椅子

白鳳の塔かがやけり柿若葉

夕空は茜色して梅雨晴間

浜松東支部 大倉照二

うず潮の波風涼し阿波の海

青田風亡父母の苦働偲びけり

四季の道片陰選りて句碑を読む

西濃支部 高畑正良

駄菓子屋の飴の七色夏まつり

初茄子にかければ弾く洗水

紫陽花や可愛い嘘を許したり

津支部 落合登代子

川柳

痛む膝なだめすかして趣味多忙

今更に余生悩まぬことにする

大府支部 藤井芳雄

格差の世「もつたいない」が見直され

梅雨空に厨の妻は四季の歌

四日市支部 小川 勇

近道を選んで喘ぐきつい坂

OB会面影残す老いの顔

富士宮支部 渡辺定善

強硬な土台がゆれる高齢化

年寄に歳聞くこともよいお世辞

沼津支部 山田寿男

出席を幸せと知る同期会

苦手から解放老いの自由みち

笠寺支部 稲塚正一

また一人黙って逝ったあわて者

一日の自戒は今朝のからす鳴き

美濃太田支部 三島次朗

年とともに骨と根性がたくなり

目的は友に逢いたく旅をした

津支部 宮田孝也





# 中央本線 南木曾駅

●開業/明治42年7月15日  
●所在地/長野県木曾郡南木曾町読書

開業当初は「三留野」という駅名であつたが、後に改称された南木曾駅。大きな切妻屋根の駅舎がひとまわり目を引く。待合室には木曾産の太いムク材がベンチとして使われていた。

駅周辺には木曾川の水力発電開発に力を注ぎ、電力王と呼ばれた福沢桃介(福沢諭吉の娘婿)に関するものが点在している。

国内最長の木製つり橋「桃介橋」(別名「桃の橋」)は、桃介が読書発電所建設の資材運搬用に架けたもの。また、発電所建設を監督するために建てた別荘は「福沢桃介記念館」として、桃介や川上貞奴の写真、遺品が展示してある。橋、別荘ともに復元されたものだが、大正ロマンを感じさせる貴重な文化遺産である。

ちなみに、この辺りの地名である読書(よみかき)とは、与川(よがわ)村、三留野(みどりの)村、柿其(かきそれ)村が合併したときにできた「よみかき」を当て字にしたものといふ。

駅から約4kmの距離にある妻籠宿は、木曾路観光のハイライトのひとつ。中山道と伊那街道が交差する交通の要衝として古くから栄えたこの宿場町は、全国に先駆けて町並み保存事業が進められ、国の重要伝統建造物保存地区に選定された。

電柱や自動販売機のない通りの両側には旅館が建ち並び、五平餅を焼く香ばしい匂いととも、木工品、漆器など伝統的な特産品を売る土産物店が軒を連ねる。妻籠宿本陣・脇本陣奥谷・歴史資料館からなる南木曾博物館は宿場の中心にあり、妻籠の歴史と文化が分かりやすく紹介してあった。

夕暮れ時、人影もまばらになると、行灯の明かりが石畳を照らす。風情のある佇まいにしほしほし時が経つのを忘れていると、やがて宿場は静寂に包まれた夜になった。



## 「会報への寄稿、 文芸欄への投稿」要領

### 支部及び会員からの寄稿

東海鉄道OB会報は、創刊号以来我々東海鉄道OB会員のための会報として、会員皆様から活発な会報への投稿を頂き、「会員で作る会報」が定着してまいりましたが、今後今更以上により多くの会員皆様からの投稿をお願いし、より一層充実した紙面にしていきたいと存じますので、ご協力をお願いいたします。

#### 1 「表紙写真」

会報誌の表紙に掲載する写真も会員から募集しております。表紙の写真が会員からのものでなくては会報誌としての意義がありません。応募写真は、それぞれの会報誌発行時の季節にあつたもので、画面に列車等が入っていても結構ですが、JR東海エリア地域内のが好ましいと希望します。

カラーB5サイズ以上一枚、ポジフィルム、デジタルカメラ(解像度A4サイズで三〇〇〇DPI以上)送付別紙に所属支部、氏名、住所、電話番号を記入し添えて下さい。

なお、複数ご応募いただいた場合には会報編集委員会にて採用選考させていただきます。また、お送りいただきましたものうち、ポジフィルム、デジタルカメラ記録媒体については、後日お返しいたします。

#### 2 「支部便り」

OB会活動の原点は支部における活動であります。今後さらなる活性化のため、お互いにそれぞれの支部の運動方針や活動状況等を参考のために是非投稿して下さい。

なお、支部総会、支部クラブ活動、会員交流会、増収協力旅行、清掃美化運動、事故防止運動等支部からの「たより」を随時受付いたしております。テーマ、内容等は自由ですが、六百字目途にまとめ、執筆者氏名を明記し、状況がわかる写真をできる限り一枚添えて下さい。

#### 3 「読者のひろば」

会員から「随筆、情報、体験談等」の寄稿を随時受け付けています。テーマ、内容等は自由ですが、千二百字以内、挿絵、写真等の掲載希望は、いずれか一枚以内とし、所属する支部、氏名及び住所、電話番号を明記して下さい。

#### 4 「絵手紙」

会員からの「絵手紙」の募集を随時受け付けています。色彩が鮮明なもので会報発行の時にあつたものを歓迎いたします。応募年月日、所属する支部、氏名及び住所、電話番号を明記して下さい。

#### 5 「短歌、俳句及び川柳」

会員からの「短歌、俳句及び川柳」の募集を随時受け付けています。応募は、会報発行毎に、一名種別ごとに官製葉書一枚に、短歌は二首、俳句は三句、川柳は二句以内に限り、会報誌発行の時にあつたものとし、冠部に「短歌」「俳句」「川柳」と朱書きし、応募葉書には、応募年月日、所属する支部、氏名(本名を記入する)及び住所、電話番号を明記して下さい。

#### 6 「掲載要領」

寄稿又は投稿された作品等は順次会報に掲載いたしますが、応募状況や紙面の都合、発行時の季節に合わせるなどして、掲載が遅れる場合がありますからご承知下さい。

なお、誤字等は修正させていただきますが、寄稿又は投稿された原稿は返却いたしません。

#### 7 寄稿及び投稿先

〒四五〇〇〇〇二  
名古屋市中村区名駅三十三十二  
キヨスク名駅ビル内  
東海鉄道OB会・会報編集係宛



## 編集後記

会報第七号(十月)の編集と今後のお願  
前回の会報で、平成十八年度の本部の総会と表彰式、静岡地本の支部総会の概要等をお知らせしましたが、今回も各地方本部の総会と東海大阪地本のレク行事、名古屋地本の支部総会の概要等をはじめ、多くの投稿を頂いた記事で賑やかな紙面となりました。

これも「会員で作る会報」が定着しつつあると喜んでいまして、JR東海及び関連グループからは引き続き参考となるニュースの提供をいただき、会員一同感謝いたしております。

今後につきましては、「会報への寄稿、文芸欄への投稿要領」を参照して頂き、より多くの会員皆様から投稿をいただき、より一層充実した紙面にしたいと考えていますのでご協力をお願いします。

一 会報表紙の写真が遠慮さみで応募があまりありません。会報への寄稿等の要領を参考にして積極的に応募をお待ちしています。  
二 支部の活動状況を遠慮なく投稿していただき、お互いの参考にしては如何でしょうか。  
三 最近JR東海を退職し、OB会に入会していただいた方々のフレッシュな投稿もお待ちしております。

四 「読者のひろば」の投稿が今回も多くて、紙面の都合で一部の投稿が次回以降にずれこみました。あしからずご承知下さい。  
五 絵手紙が好評で、多くの方の投稿をお待ちしています。  
六 短歌、俳句、川柳を多くの方々から幅広い応募をお待ちしております。

(杉浦)

発行 千四五〇〇〇〇二  
名古屋市中村区名駅 三十三十二  
キヨスク名駅ビル内 東海鉄道OB会本部  
発行人 杉浦 定行  
電話 〇五二一五六二一六〇八〇 (FAX 兼用)